



1 米山学友設立の日本式教育学校を天皇陛下が訪問

7月10日、モンゴルを公式訪問中の天皇陛下が、同国国会議員を務める米山学友のジャンチブ・ガルバドラッハさん(1998-99/山形北RC)が日本式教育を導入して設立した「新モンゴル学園」を訪問されました。

当日、同学園の学生・教職員代表らが日本語での校歌合唱などで天皇陛下を歓迎しました。ジャンチブさんからは、同学園の沿革や日本との関係、学生の日本留学実績、帰国後の活躍などについてご説明をし、多くのロータリー会員や山形市の仲間による支援で設立に至った経緯や、優秀な留学生に奨学金を支給している奨学財団について触れながら、「国づくりは人づくり」の考えの下、質の高い教育を行うために日本の教育をモデルにしていることをお伝えしました。



生徒から歓迎の花束を受け取られた天皇陛下



学園内を案内するジャンチブさん(左)

天皇陛下は、日本の教育制度がモンゴルの役に立っていること、多くの卒業生が日本留学を終えて帰国し、母国の発展のために努力しているという話に対して、喜びの意を表されたそうです。

全体で40分の訪問スケジュールの中で、天皇陛下は高校生の日本語の授業をご覧になり、生徒らが発表した夢や目標に対して感想を述べられ、生徒たちにいくつか質問をされました。

天皇陛下はジャンチブさんに対し、「良いことをしていますね。国の基礎は教育です。これからも日本とモンゴルの若者たちの交流を進めてください」と述べられ、握手とともに「新モンゴル学園の更なる発展をお祈りします」と激励の言葉を伝えられ、訪問を終えられました。

(写真はジャンチブさん本人より提供)

2 2026 学年度奨学生の募集を開始

来年4月採用の新規奨学生募集が始まりました。各地区の米山記念奨学委員会が選定し、当財団選考・学務委員会と常務理事会の承認を経て決定した指定校は、全国で609キャンパス(前年度586キャンパス)となりました。指定校からの被推薦者数は2,025人(同1,909人)で、この中から新規奨学生約680人が選ばれます。

今回、9校(同15校)が初指定校となりました。また、5地区(同5地区)が例会に通える範囲の地区外の26校(同15校)の大学を指定しました。さらに、大学・大学院以外を対象と

する地区奨励奨学金は、15地区(同13地区)39校(同38校)となっています。当財団からは8月5日に、全指定校宛にメールで通知しました。

各地区米山奨学委員会では毎年、学校説明会や学校担当者との懇談を行うなど、事業の目的に合う多様な人材を採用しようと努力しています。指定校からの応募締切は例年通り、10月15日となります。

※指定校一覧、募集要項・申込書式は、当財団ホームページにて公開しています。

3 寄付金速報 —2025-26 年度の始まりは—

前年同期比

-4.5%

普 -3.0% 特 -8.0%

2025-26 年度の最初の月となる 7 月末までの寄付金は約 2 億 375 万円でした。前年同期と比べて約 4.5% 減(普通寄付金:3.0%

減、特別寄付金:8.0%減)、約 980 万円の減少となりました。

過去には 2 億円に満たなかった年度もあった中、ご寄付いただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。今年度も引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

4 多様性あふれる第 2580 地区米山学友会

7 月 5 日、第 2580 地区米山学友会定時総会・懇親会が東京都内で開催され、学友 26 人を含む計 69 人が参加しました。当日は、他地区からのロータ



新役員選出が行われ、引き続き会長を務めることになった楊子明^{ヨウシメイ}会長(2002-03 / 東京新橋 R C)から、次年度の活動方針が発表されました。

リー会員や学友の姿が見られ、地区の枠を越えた交流の場となりました。

第一部の総会では、谷一文子ガバナーエレクトが来賓挨拶の中で、「当地区の学友会は、奨学期間を日本各地で過ごした学友が集まっており、まさに多様性を体現している」と述べ、学友のつながりの大切さを強調されました。また、当財団評議員である鈴木喬氏からも激励の言葉が送られました。続いて、活動報告、会計報告、

第二部では、「ロータリアンのびっくりするところ」をテーマにテーブル討論が行われ、学友らが語る体験がロータリー会員の励みとなり、交流の意義を再認識する場となりました。

第三部の懇親会では、楽器演奏の披露や初参加会員の紹介、他地区学友会の発表などがあり、学友の所属地区や出身国は異なっても、「米山ファミリー」としての一体感が随所に感じられる総会となりました。

5 米山学友の活躍を紹介『米山学友の群像 vol.6』完成

当財団では、『米山学友の群像』と題し、巣立った米山奨学生たちが現在どのような活躍をしているのか、ロータリーでの体験が、その後の人生にどのような影響を与えたのか、奨学事業の成果を伝える広報資料として、2005 年から数年おきに発行しています。今回、その第 6 弾となる『米山学友の群像 vol.6』が完成しました。本冊子では、世界で活躍する学友や、学友会の活動などを紹介。米山月間資料として各クラブにお届けしますが、米山関連セミナー等での配布をご希望の方は、メール(highlight@rotary-yoneyama.or.jp)でご連絡ください。

